

図書館情報資源の資産価値の検討

－利益概念の考察をとおして－

作野誠

愛知学院大学非常勤講師・名古屋市立大学大学院経済学研究科研究員

図書館情報資源；資産価値；利益概念

1. 研究の動機

愛知学院大学図書館情報センター勤務時に課題としていたことのひとつである、図書館情報資源の資産価値を、利益概念の考察をとおして検討したい。館種を問わず、図書館情報資源の資産価値を正確に測定出来なければ、その図書館の純資産額の確定が出来ない。純資産額を把握することは、図書館経営の重要な指標を得ることになると考える。その測定・評価方法を企業会計の基本的な考え方を援用して考察したい。

2. 研究の経緯

図書館情報資源の資産価値については、第28回医学情報サービス研究大会でも、研究枠組みの検討という観点から発表した。

その後、この問題に関しては会計学的視点から若干の検討をし、図書館会計における複式簿記の導入と貸借対照表及び損益計算書作成の必要性、会計における期間対応の重要性を明らかにした。それは、会計・財務の役割は、「財産の状況と損益の計算」であるといわれることから、これを確立しなければ、図書館という「組織が成果をあげること」は出来ないと考えたからである¹⁾。

3. 研究の課題

司書課程・司書講習の図書館制度・経営論の教科書でも、図書館財務という観点から、複式簿記による、企業会計原則を導入した、新しい公会計制度の必要性が指摘され、官庁会計の限界が指摘されている²⁾。

また、平成27年度から改正施行される、学校法人会計基準においても、貸借対照表に、純資産を計上することが求められる。そうすると、図書館情報資源の資産価値が正確に測定されなければならないことになる。

この問題を、会計学・財務論の研究方法に基づいて、明らかにしたい。

注)

1) 作野誠「図書館情報資源の資産価値の研究：会計学的視点からの検討」『医学図書館』医学図書館協会、平成24年、第52巻第2号、124-130頁。

2) 糸賀雅児・葉袋秀樹編集『図書館・制度経営論』樹村房、平成25年、132-137頁。
柳与志夫『図書館・制度経営論』学文社、平成25年、66-63頁。